

氏名	王 若冲
授与した学位	博士
専攻分野の名称	文学
学位授与番号	博甲第 7177 号
学位授与の日付	令和 6 年 9 月 25 日
学位授与の要件	社会文化科学研究科 社会文化学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文の題目	魚玄機詩歌中の詩的表現 一月にまつわる詩語を中心として一
論文審査委員	教授 遊佐 徹 (主査) 准教授 橘 英範 准教授 西山 康一 准教授 藤原 祐子

### 学位論文内容の要旨

本論文は、詩人魚玄機とその詩作、特に「月」にまつわる詩的表現に焦点を当てた研究です。魚玄機の研究史においては、彼女の生涯や、彼女を主人公とした二次創作に対する論述が多く見受けられますが、作品そのものに立ち向かった綿密な考察は乏しい状況にあります。この点を踏まえ、本論文では、魚玄機に「月」を詩語として用いた作品が多いことに注目し、それをもとに彼女の詩作の独自性を検証することを目指しました。

論文は序論、本論、結論の三部分からなっています。序論では研究の背景と目的を紹介し、本論では研究課題を深く掘り下げて実証的分析を行い、結論で研究の成果をまとめて研究の貢献を論述するという組み立てです。また、本研究の将来の展望について簡潔に述べたあとがきと関連資料を付しています。

本論文における核心部分である本論は六章で構成されています。以下、その内容を簡単に紹介します。

第一章では魚玄機の詩における「月」という詩語に焦点を当てて研究を進める理由について示します。先行研究の整理を通じて古典詩における「月」の一般的な意味を述べ、魚玄機の詩に登場する「月」のイメージを整理しました。

第二章では「月色沈沈」という表現を中心に考察し、「沈沈」は物理的に月の光を形容するが精神的には孤独を表すことを明らかにし、この表現が魚玄機によって提案された斬新な表現であることを論証しました。

第三章では「春花秋月」という表現について考察しました。魚玄機はこの言葉を最初に使用した詩人であり、『全唐詩』では彼女と李煜のみが使用しています。また、後世の詩人たちは、魚玄機と李煜の使用法を継承していることを明らかにしました。

第四章では「風月滿庭」という表現に着目し、「風月」が自然の風景を意味することを確認しました。魚玄機の「風月滿庭」は、動的詩語と静的詩語、視覚詩語と触覚詩語を組み合わせた印象的な表現であり、後世の詩的描写に影響を与えたことを明らかにしました。

第五章では先行研究において解釈が異なる「籠月」という表現について考察しました。詩語の変化や詩全体の景物描写、感情表現の特徴について考察しました。

第六章では先行研究において解釈に異同のない表現に注目し、形容詞と「月」、動詞と「月」の組み合わせについて考察しました。それにより魚玄機は古典詩の中の詩的表現を深く理解し、それを再加工して独自の表現を形成する能力に長けていたことを改めて証明しました。

結論部分では、魚玄機が表現技法において独自の工夫を凝らし、斬新な表現を生み出していたことを指摘し、さらにはその表現が後世の詩人たちの創作にも影響を与えたことにも改めて言及し、魚玄機の詩作の再評価の可能性を強く示唆して論述を終えています。

## 論文審査結果の要旨

被審査者の王若冲君は、中国の湖南大学で日本語を学んでいる際に、中日詩歌の言語表現に興味を持ち、その後、吉林大学で中日比較文学について研究し、『源氏物語』と『紅樓夢』における女性人物の描写、及び関連する和歌と詩詞の比較を研究するに至りました。この過程で、2014年キャンパスアジアでの岡山大学への交換留学を通じて、日本の文学研究により深く触れたのを契機に2017年、博士前期課程入学、さらに博士後期課程に進学し、中国古典詩歌について研究を進め、このたびの学位論文提出に到りました。

学位論文審査は7月3日14:30から文法経1号館103号教室で開催されました。審査員以下の通りです。

遊 佐 徹 教授	社会文化科学研究科	主査・指導教員	中国近現代文学
橘 英 範 准教授	社会文化科学研究科	副指導教員	中国古典文学
西山 康一 准教授	社会文化科学研究科	副指導教員	日本文学
藤原 祐子 准教授	教育推進機構	専門分野に關係の深い 学術領域の教員	中国古典文学

審査会の冒頭、被審査者より、提出済みの学位論文の構成、内容および研究の特質、学術的貢献、今後の発展性などについて簡単な紹介があったうえで、質疑応答に入りました。

本論文の最大の特徴は、ともするとその激しい生涯に注目が集まってきたことで詩人としての能力の評価が疎かになってきた嫌いのある唐代の女性詩人、魚玄機に対してその作品を綿密に読み込みこむことを通じて新たな評価の可能性を提示した点にあります。その際に被審査者が用いた手法は、魚玄機作品の詩語に注目するというもので、特に「月」にまつわる詩語（月色沈沈、春花秋月、風月滿庭、籠月）に特化して考察を進めるという形をとっています。当然、審査員の質疑もそこに集中し、1、研究の対象を「月」にまつわる詩語に絞った理由、2、その方法的妥当性、3、論文の構成の妥当性（詩語を取り上げる順序）について回答を求めることになりました。被審査者からは論文の内容を踏まえつつ説明があり、1については、他の唐代女性詩人における「月」にまつわる詩語の用例数に対する比較優位性、2については、従来の魚玄機研究の不足を補うとともに唐代女性詩人の正当な評価の必要性をもって回答がなされました。3の構成の妥当性については、被審査者の研究の深化（研究成果の発表順）を反映しているとの説明がありましたが、魚玄機による詩語の発見の過程を踏まえた構成、つまり詩人の人生とその文学的営み、成熟を重ね合わせるような工夫があってもよかつたのではないかとの指摘がありました。その他審査員からは、1に関しては、通時的、共時的な作品資料の収集に基づく根拠強い読解を、2に関しては、先行研究を網羅しまとめている点をそれぞれ評価する意見がありました。

その一方、作品の訓読に複数の難点が見られる点、作品の解釈にやや混乱が見られる点、引用にいくつかの誤りが見られる点、そして第6章のクオリティが他の章に比して低い点などの指摘がありました。

研究業績は、研究論文が紀要、国内学会誌に3本、研究ノートが2本、研究発表は国際研究集会で3回、全国学会で1回、その他地域学会、国内学会でそれぞれ1回となっています。

審査委員会としては、以上のような問題点はあるもの、それらは公開までに修正が可能なレベルであ

ることをもって、合議の結果「合」と判断いたしました。  
学位に付する専攻分野の名称は「文学」となります。